新たな集団的労使関係を発展させ構築していくための業界誌

結 yui

Vol. 10
2019

巻頭特集

暑中期のコンクリート製造・運搬に要注意。

KURSレポート

「'19 春闘」合意。
一般社団法人 西日本建設関連オーナー会
KURS（コース＝近畿生コン関連協議会）

生コン業界広報誌「結(yui)」の、ホームページができます。

結(yui) ホームページ
令和元年5月1日公開!!

平成30年6月に創刊した、
生コン業界広報誌「結」は、
令和元年5月1日、
ホームページを公開します。
スマホやパソコンで
ぜひアクセスしてください！

QRコードでも
アクセスして
いただけます。

■掲載コンテンツ

- ◎特集
- ◎KURSレポート
- ◎インタビュー・対談
- ◎DATAでみる生コン産業
- ◎労働法ゼミナール　…他

今後さらに充実していきますので、ご期待ください！

創刊号から最新号までの、バックナンバーもご覧いただけます！

https://yui-web.jp/

CONTENTS

巻頭特集

004 暑中期のコンクリート製造・運搬に要注意。

KURS レポート 第8回

012 「'19 春闘」合意。
新たな労使関係で、新時代へ。

協賛団体

011 大阪広域生コンクリート協同組合

011 大阪兵庫生コンクリート工業組合

011 一般社団法人西日本建設関連オーナー会

011 和歌山県広域生コンクリート協同組合

011 和歌山県生コンクリート工業組合

011 大阪府砂利石材協同組合

011 神戸みなと建設協議会

011 大阪広域輸送協同組合

011 関西圧送協同組合

暑中期のコンクリート製造・運搬に要注意。

暑い大阪に、35℃超えでも適応できる対策を

近年、夏季に猛暑となる大阪地域では、皆さんの職場でも、生コンクリートの製造・運搬に関する対策を講じているのではないだろうか（図1）。そんな暑中コンクリート工事における対策のベースとなっているのが〈暑中コンクリート工事における対策マニュアル（以下、初版マニュアル）〉だ。産学多くの人々が関わり、気の遠くなるようなデータを元につくられている。

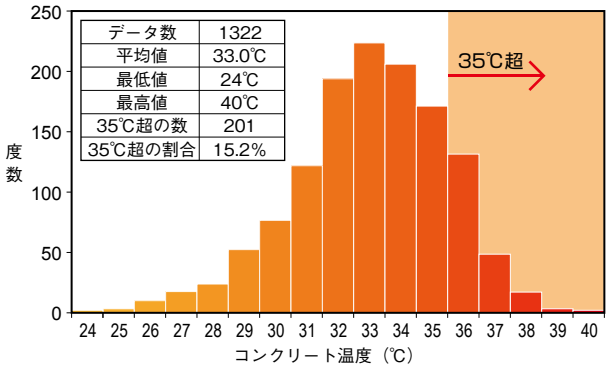
初版マニュアルは、荷卸し時のコンクリート温度が、35℃以上になる場合に取るべき対策をまとめたもので、2009年に、夏場のコンクリート工事の過酷な環境を危惧した、日本建築学会近畿支部材料・施工部会と、大阪広域生コンクリート協同組合が、〈暑中コンクリート対策検討委員会（以降、同委員会）〉を設置、実機実験を繰り返して、2013年に発行したものだ。

しかし年々進む地球温暖化に対し、継続して研究を進めていた同委員会では、2018年に暑中期をベースに極暑期を前提とした改訂版〈暑中コンクリート工事における対策マニュアル2018（以降、改定版マニュアル）〉を発行した。これは、荷卸し時のコンクリート温度が35℃を超えて38℃に達しても、適切な対応を講じれば、35℃以下の場合と同じ品質を確保できることを示している。

その情報を関係者が共有し、活用できるよう、2019年3月7日、大阪科学技術センターにおいて『〈暑中コンクリート工事における対策マニュアル2018〉改定報告会』を開催した。

今回の特集では、そのレポートと、コンクリートの製造・運搬を担う皆さんに注意していただきたいポイントを簡単にまとめる。暑中期においても、常に安定した品質のコンクリートを提供できるよう、業界人の一人として、ポイントを押さえておいてほしい。

改定版マニュアルは、大阪広域生コンクリート協同組合をはじめ、大阪兵庫生コンクリート工業組合、和歌山県生コンクリート工業組合、奈良県生コンクリート工業組合などの多くの工場で実機実験が行われ、その結果をベースにまとめられている。



2018年近畿2府4県で調べた荷卸し時のコンクリート温度の実態。全データの15%が35℃超。

図1. 暑中期における荷卸し時のコンクリート温度測定結果（普通ポルトランドセメント）

『暑中コンクリート工事における対策マニュアル 2018 改定報告会』

主催／日本建築学会近畿支部 材料・施工部会
後援／大阪兵庫生コンクリート工業組合 ほか

建築、土木、生コン関係者 280 名が参加した『〈暑中コンクリート工事における対策マニュアル 2018〉改定報告会』。

マニュアル改定に合わせ改定報告会を開催

報告会は、日本建築学会近畿支部 支部長で神戸大学名誉教授の三輪康一氏による挨拶、(株) 竹中工務店 大阪本店 技術部の岩清水隆氏による主旨説明に続き兵庫県、大阪府、奈良県、和歌山県の生コン技術者による〈暑中期のコンクリートに関する各地区での実験結果〉や、〈近畿2府4県における荷卸し時のコンクリート温度等の実態調査〉を解説。その後は〈暑中期に施工されるコンクリートの各規・基準〉、〈本マニュアルの適用条件〉、〈事前協議（ブリーフィング）〉、〈製造者の暑中対策〉〈施工者の暑中対策〉など、中2回の休憩をはさんでマニュアルの各章や付録を補足解説した。その後は、今後現場で重要となる〈運用・まとめ〉を、(株) 淺沼組 日本建築学会近畿支部 材料・施工部会主査の山﨑順二氏が、また報告会全体を見渡しての〈講評〉を大阪大学名誉教授の大野義照氏が行ない、長時間に及ぶ報告会を終えた。

≪プログラム≫（敬称略）

主催／日本建築学会近畿支部材料・施工部会
後援／日本コンクリート工学会近畿支部、土木学会関西支部、大阪兵庫生コンクリート工業組合ほか
司会：栗延 正成（阪南産業㈱）

挨拶／日本建築学会近畿支部 支部長（神戸大学名誉教授）	三輪 康一
1）主旨説明（㈱竹中工務店 大阪本店技術部）	岩清水 隆
2）暑中期のコンクリートに関する各地区での実験結果（付録 3）	船尾 孝好 新宅 和也 中村 嘉 上田 清
3）近畿 2 府 4 県における荷卸し時のコンクリート温度等の実態調査（付録 4）	大前 祐樹
― 休憩（15 分）―	
4）暑中期に施工されるコンクリートの各規・基準（2 章）	林 典男
5）本マニュアルの適用条件（1 章・3 章）	岩清水 隆
6）事前協議（ブリーフィング）（4 章）	山田 藍
― 休憩（15 分）―	
7）製造者の暑中対策（5 章）	岡田 裕
8）施工者の暑中対策（6 章）	柏木 隆男
9）運用・まとめ	山﨑 順二
10）講評	大野 義照

挨拶を行う日本建築学会近畿支部 支部長（神戸大学名誉教授）の三輪康一氏（写真右）と、〈運用・まとめ〉を行う（株）淺沼組 技術研究所 材料研究グループリーダーで同支部材料・施工部会主査の山﨑順二氏（写真左）。

プラスチック収縮ひび割れ、コールドジョイントを防ぐ。

改定版マニュアルには、膨大な情報が詰まっている。ここでは、皆さんがお仕事をする際に意識していただきたい部分をかいつまんで説明したい。

まず、暑中期・極暑期に施工されるコンクリートは、気温の高さや日射の影響で、〈プラスチック収縮ひび割れ〉や〈コールドジョイント〉などが、発生しやすくなるなどの問題が発生する可能性が高い(図2)。

そこで暑中期・極暑期のコンクリート温度に気を配り、改定版マニュアルにある適用条件やさまざまな対策、また後ほど説明する関係者とのブリーフィング(事前協議)などによって、対策を講じるよう心がけてほしい。

①スランプが出にくくなる

②空気が連行されにくくなる

③運搬中のスランプの経時変化が大きくなる

④プラスチック収縮ひび割れが発生しやすい

⑤凝結が速くなり、
コールドジョイントが発生しやすい

⑥マスコンクリートにおいて水和熱による
温度の上昇が大きくなりやすい

⑦圧縮強度試験用供試体の強度が
出にくくなる

⑧構造体コンクリート強度の伸びが
悪くなり、S 値が大きくなる

⑨乾燥収縮に加えて、
外気温の低下に伴う収縮が作用し、
ひび割れが入りやすくなる

図 2. コンクリート温度上昇が引き起こす問題点

製造部門では、材料温度を下げるのが基本。

暑中コンクリートの温度管理について、私たちが直接関わる部分は、主に製造と運搬の部分だ。ここでは、それぞれのポイントを紹介する。詳細については、改定版マニュアルを参照してほしい。

まずは製造に関わる部分。暑中期のコンクリート温度の上昇に対して生コン工場が実施できる暑中対策は、使用する材料の温度を下げることが基本となる。

セメント、細・粗骨材、練混ぜ水、混和剤料などの保管時の温度対策・効果・懸案事項は、次の表の通りだ。

■用語／「暑中期」日平均気温の平均値が 25.0℃を超える期間「極暑期(ごくしょき)」暑中期のうち、日平均気温の平均値が 27℃を超える(27.5℃以上)期間

【セメントの温度対策・効果・懸案事項】

セメントの受入れ・保管時の温度対策は、一般に行われる内容で、設備・管理面共に一定の効果があると考えられる。しかし練上がり時のコンクリート温度を1℃下げるには、セメント温度で約8℃下げる必要があり、より温度を下げるには費用対効果を含めた検討が必要となる(表1)。

表 1. セメントの温度対策・効果・懸案事項

セメントの受入れ・保管時の温度対策		効果
①	高温のセメントは用いない。	大〜中
②	セメントサイロに日除けを設けたり、遮熱塗装を施す。	小〜微
③	セメントサイロ内に一定期間貯蔵し、温度を低下させる。	小〜微
④	低熱ポルトランドセメントなど、セメント温度の低いものを使用する。	中〜小
対策・採用のための懸案事項		
①	セメント温度の受け入れ基準はなく、高温のセメントを使用せざるを得ない。	
②	セメントサイロを生コン工場が所有していない場合は、対処は厳しい。	
③	生コン工場のセメントサイロの数に余裕がない場合が多い。	
④	低熱ポルトランドセメントなどを使用する場合は、費用対効果などを、工事関係者間で事前に協議する必要がある。	

暑中期の コンクリート製造・運搬に要注意。

【細・粗骨材の温度対策・効果・懸案事項】

細・粗骨材は、コンクリート内に占める容積割合が大きい。そのため細・粗骨材の温度を2℃下げることで、練上がり時のコンクリート温度を約1℃下げることができる（改定版マニュアル付録2のアンケートによると、実質的な効果はそれほど大きくないとの結果もあり注意が必要）（表2）。

【練混ぜ水の温度対策・効果・懸案事項】

練混ぜ水の温度を4℃下げると、コンクリート温度は約1℃下がるが、その保管・管理時の対策は、設備・管理面共にあまり効果的ではない。また、練混ぜ水に冷水や氷などを使用するには、特殊な冷却設備の設置が必要なため、費用対効果を含め、関係者での協議が必要（表3）。

表 2. 細・粗骨材の温度対策・効果・懸案事項

細・粗骨材の受入れ・保管時の温度対策		効果
①	細・粗骨材は適度に湿潤したものを受け入れ、粗骨材については、適切に散水して使用する。	小～微
②	細・粗骨材サイロに日除けを設ける。	小～微
③	ベルトコンベヤーに覆いをかけたり、覆いに遮熱塗料を施す。	小～微
④	細・粗骨材サイロの換気をよくする。	微
対策・採用のための懸案事項		
①	細骨材への散水は避ける。また、粗骨材への散水は、蒸発潜熱による効果が大きいが、適切な散水を行うとともに、表面水の管理には十分注意を払う必要がある。	
②③	コルゲートサイロの採用増加も含め、多くの生コン工場で対策を実施しているが、気象等の環境による影響を受ける。	
④	換気窓の開閉によるもので、気象等の環境による影響を受ける。	

表 3. 練混ぜ水の温度対策・効果・懸案事項

練混ぜ水の保管時の温度対策		効果
①	地下水を使用する	中～小
②	貯水槽の立地または設置条件を考慮し、貯水された練混ぜ水が外気温の影響を受け上昇しやすい場合は、ため置きしない。	小～微
③	貯水槽に覆いをかける。	微
④	練混ぜ水をチラー※１により、機械的に冷却して使用する。	大
⑤	アイスプラント※２を使用し、練混ぜ水の一部に氷を用いる。	大
対策・採用のための懸案事項		
①	環境に配慮する観点から練混ぜ水は、回収水（上澄水）を標準としている生コン工場が多いため、暑中時期には、回収水およびコンクリートの温度を確認して使用する。	
②③④	地下水の使用や貯水槽設備の対応ができない生コン工場がある。	
④	特殊な設備のため、ほとんどの生コン工場は設備を保有していない。設備設置時の仕様については想定する生コン量など、コンクリート温度は運搬時間の経過とともに環境温度等の影響を受けて上昇するため、費用対策効果を工事関係者間で協議する必要がある。	
⑤	特殊な設備のため、ほとんどの生コン工場は設備を保有していない。また、氷を使用した場合、JIS マークを表示できないため、工事関係者間で協議する必要がある。	

注）※１　チラーとは水や熱媒体の液温を管理しながら循環させることで温度を一定に保つための装置の総称。設備費用は（改定版マニュアルの）表ー 5.16 参照。
※２　アイスプラントの仕様は（改定版マニュアルの）表ー 5.18 参照。

■凡例／大：コンクリート温度を３℃程度低下、中：コンクリート温度を２℃程度低下、小：コンクリート温度を０～１℃程度低下・微：ほとんど変わらない

ドラムへの断熱や遮熱。現場では日陰駐車も有効。

暑中期における、コンクリート運搬中の対策としては、生コン車ドラムへの遮熱塗装や断熱塗装、断熱カバーの採用だ。色では、濃色より白色や薄緑色が、また遮熱よりも断熱のほうが有利なことが判明した（図３）。

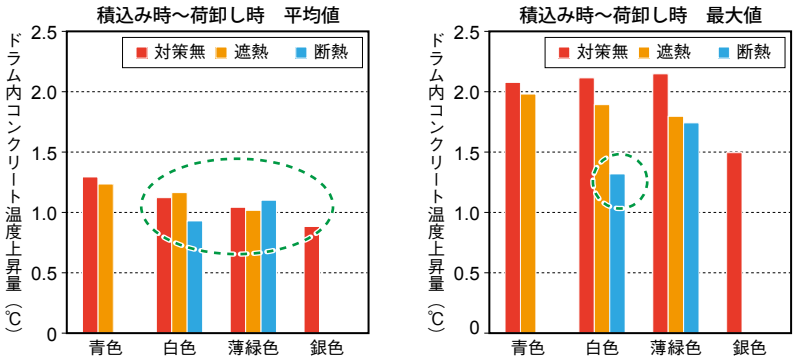


図 3. 対策の種類および色の違いによる抑制効果の比較（一部抜粋）

現場待機時の温度上昇抑制対策としては、生コン車への散水や送風、また日陰駐車や仮設庇の設置なども有効な手段と考えられる。

日平均気温で変わるコンクリート運搬時間

生コン工場から荷卸し地点までの運搬時間の限度は、ＪＩＳＡ５３０８に規定されているように、通年で90分となっている。しかし注意したいのは、この90分には荷卸しに要する時間は含まれていないということだ。そして、日平均気温が25℃以上となる暑中期の場合には、練混ぜ～打込み終了までの時間が90分以内になる（ＪＡＳＳ５）ということ、つまり日平均気温によって、運搬中も含めてコンクリート温度を上げないような対策や、遅延形の化学混和剤の使用により、凝結を遅らせるような対策を講じて、工事監理者の承認を受けることで、運搬～打込み終了までの時間の限度を、延長することができるということだ。

さらに、日平均気温が27℃を超える極暑期となる場合は、打込み直後のコンクリート温度が35℃を超える可能性があるため、工事関係者との事前協議において、どのような対策を講じるのかを、決める必要があるということを認識しておいてほしい（図４）。

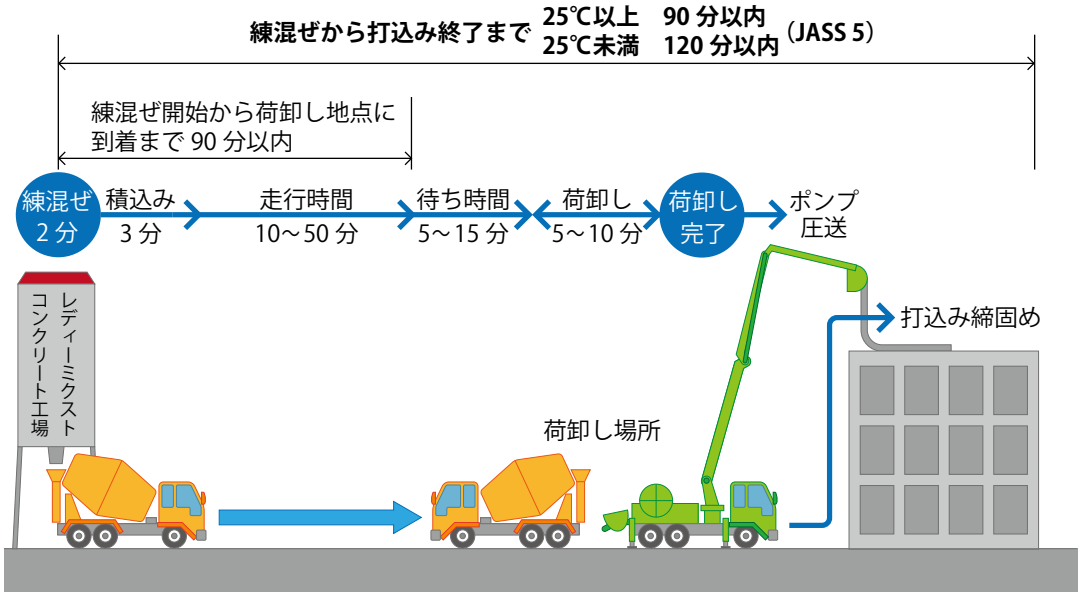


図 4. 生コンクリートの運搬・打込み終了までの時間の限度

いちばん重要なブリーフィング（事前協議）

暑中コンクリート工事では、各工程の従事者だけでなく、工事関係者が認識を共有して取り組む必要がある。そこで重要となるのが〈ブリーフィング（事前協議）〉、つまり話し合いだ（図５・表５）。

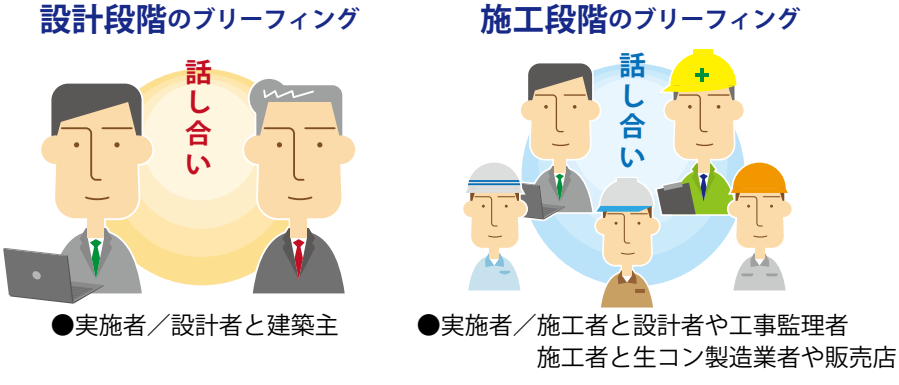


図 5. ブリーフィング（事前協議）

暑中期の コンクリート製造・運搬に要注意。

ブリーフィングには、設計段階と施工段階の2段階がある。設計段階のブリーフィングは、設計者が、荷卸し時のコンクリート温度が35℃を超えることを確認し、極暑期対策を盛り込んで設計している場合で、予算措置も含まれるため、設計者と建築主とで行われる。

これに対して、設計段階で、荷卸し時のコンクリート温度が35℃を超えることを確認していない場合、ブリーフィングは施工段階となり、施工者が（場合により設計者も交えて）暑さ対策の検討、または生コン製造者が施工者や工事監理者に対して注意喚起を行い、必要と判断された場合、施工者は生コン製造者や販売店と対策実現の可能性をブリーフィングする。

そして施工者は、実現可能な対策を施工計画書に反映し、工事監理者からの承認を受けるというのが基本的な流れだ。

以上のように、暑中期や極暑期のコンクリート工事では、さまざまな注意が必要となる。各社ではそれを想定した対策を講じていると思われるが、これからは皆さんも、暑中コンクリート工事に対する理解を一歩進め、安定供給に努めていただきたい。

なお本特集は、改定版マニュアルに掲載している情報を、一部引用、また参考にしてまとめている。取材にご協力をいただいた日本建築学会近畿支部の皆様、また、たいへんお忙しいところ内容の確認をいただいた山﨑順二氏に、この場をお借りして感謝したい。

表 5. 各段階のブリーフィング

(a) 設計段階で荷卸し時のコンクリート温度が 35℃を超えることを許容されている場合

種　類	(1) 設計段階のブリーフィング	(2) 施工段階のブリーフィング
概念図	設計　特記仕様書作成　①　②　設計段階	極暑期実機実験　室内試し練り　施工計画作成　工事着工　③　④　⑤　施工段階
内　容	①設計者は、極暑期対策を盛り込んで設計し、対策計画を特記仕様書に盛り込む。 ②設計者は、建託主と、極暑期対策に関して予算措置を含めて協議する。	③施工者は原則として設計者の指示に従えばよいが、実施可能な対策であるかどうかなどについて、生コン製造者や販売店に確認し、工事監理者と協議する。 ④施工者は、（改定版マニュアルの）3.3 に従い、極暑期実機実験や室内試し練りの要否を設計者や生コン製造者と協議の上で決定する。必要な場合には、計画書を作成し、関係者とともに実施に向けた調整を行う。 ⑤施工者は、特記仕様書に従い、対策内容を盛り込んだ施工計画書を作成し、工事監理者の承認を受ける。

(b) 設計段階で荷卸し時のコンクリート温度が 35℃を超えることを許容されていない場合

種　類	(1) 設計段階のブリーフィング	(2) 施工段階のブリーフィング
概念図	設計　特記仕様書作成　設計段階	極暑期実機実験　室内試し練り　建築確認検査機関への確認　施工計画書作成　工事着工　①②　③　④　⑤　施工段階
内　容	–	①施工者が、極暑期対策の必要性を検討する。あるいは、生コン製造者が、施工者や工事監理者に対して注意喚起する。 ②施工者は、生コン製造者や販売店と対策の実施可能性を検討する。 ③施工者は、同 3.3 に従い、極暑期実機試験や室内試し練りの要否を設計者や生コン製造者と協議の上で決定する。必要な場合には、計画書を作成し、関係者と共に実施に向けた調整を行う。 ④極暑期対策のための調合（スランプ、荷卸し時のコンクリート温度）を変更する場合は、工事監理者または設計者は、その可否を建築確認検査機関に確認する。 ⑤施工者は、実施可能な対策内容を施工計画書に反映し、工事監理者の承認を受ける。

暑中コンクリート工事対策マニュアル 2018

●マニュアル／5,000 円（1 冊）
●送 料／1 冊の場合　500 円
※2 冊以上の場合は近畿支部へお問い合わせください。
※申込みは、現金書留にてお願いします（銀行振込みはお受けできません）。

◎お問い合わせ・お申込み　（一社）日本建築学会近畿支部
TEL.06-6443-0538　FAX.06-6443-3144
E-mail：aij-kinki@kfd.biglobe.ne.jp

生きる

コンクリート

安心できる暮らしと社会と未来のために…

安心・品質保証の生コン
コンクリード®

大阪広域生コンクリート協同組合

https://www.osaka-kouiki.or.jp/ @osakakouikinama

大阪広域生コンクリート協同組合

理事長　木村 貴洋

〒541-0048　大阪市中央区瓦町２丁目４番７号　新瓦町ビル５階
TEL 06-6222-5661 / FAX 06-6222-5662

大阪兵庫生コンクリート工業組合

理事長　木村 貴洋

〒530-0001　大阪市北区梅田 1-1-3　大阪駅前第３ビル 4F ５号
TEL 06-6344-5231 / FAX 06-6344-7705

一般社団法人西日本建設関連オーナー会

会長　菅生 行男

〒541-0048　大阪市中央区瓦町２丁目４番７号 新瓦町ビル４階
TEL 06-6222-5102 / FAX 06-6222-5103

和歌山県広域生コンクリート協同組合

理事長　丸山 克也

〒642-0031　和歌山県海南市築地６番地 17
TEL 073-483-1313 / FAX 073-483-0013

和歌山県生コンクリート工業組合

理事長　丸山 克也

〒641-0036　和歌山県和歌山市西浜 1660 番地 291
TEL 073-445-0377 / FAX 073-445-3524

大阪府砂利石材協同組合

理事長　千石 高史

〒530-0003　大阪市北区堂島２丁目１番 27 号　桜橋千代田ビル５階
TEL 06-6344-5572 / FAX 06-6344-5574

神戸みなと建設協議会

会長　山田 高広

〒654-0049　神戸市須磨区若宮町１丁目１番６号
TEL 078-731-1830 / FAX 078-732-2920

大阪広域輸送協同組合

理事長　浦野 正国

〒541-0048　大阪市中央区瓦町２丁目４番７号 新瓦町ビル３階
TEL 06-4394-7220 / FAX 06-4394-7221

関西圧送協同組合

理事長　清田 正春

〒652-0866　神戸市兵庫区遠矢浜町 5-20 2F
TEL 078-686-0236 / FAX 078-686-0246

一般社団法人 西日本建設関連オーナー会
KURS（コース＝近畿生コン関連協議会）

「'19春闘」集合交渉

◎会場／ヴィアーレ大阪　◎開催日／ 2019年3月27日

「'19春闘」合意。

新たな労使関係で、新時代へ。

（一社）西日本建設関連オーナー会と、KURS（コース）が'19春闘で確認。

2019年3月27日午後6時より、ヴィアーレ大阪で第4回集合交渉が、一般社団法人 西日本建設関連オーナー会35社42名、KURS（コース＝近畿生コン関連協議会）は労供連絡協議会（10団体）の代表を含む46名の出席で開催された。

KURSは最終交渉にあたって、基本合意の内容（次ページ一覧表）に対する意見をはじめ、春闘終結後の継続協議に関する重要課題を提案し、オーナー会との意見交換を行い、解決をはかった。正規労働者の賃金引き上げ・一時金については、年収ベースでの底上げを中心に解決し、今後の賃金制度のあり方について、継続協議のなかで取り決めていくこととした。

慢性的人手不足の解消にむけた、働き方改革へ前進をめざすことで合意。

日々雇用労働者の日額賃金の底上げについては、労使関係のない未組織未加盟社にも周知をはかっていくこと。繁忙手当については50年に及ぶ歴史的契約内容であることを、深く再認識して妥結に至った。誘導員の配置について、物件対応とするとの回答に対して、とりわけ夏場対策・猛暑対応として、健康・安全を確保するために適正な誘導員の配置を強く要請し、見直しを要求。日々雇用労働者の供給については、労供連加盟団体を優先的に使用すること、またフリー対策を強化するよう求めた。

新しい制度確立へ、迅速に対応。各種小委員会を開催。

パートナーシップ協約の締結については、①慢性的人手不足の解消②働き方改革③非正規労働者

挨拶を行うKURS議長の岡本幹郎氏（写真上）と、コメントを述べる同事務局長の岡元貞道氏（写真下）。

KURS レポート

第８回

‘19春闘回答（抜粋）

○正規労働者の賃上げについて

①昨年年収が 550 万円以上の者は現状通りとする。

②昨年年収が 550 万円未満の者は一律 5,000 円を引き上げる。

③昨年年収が 500 万円未満の者は一律 7,000 円を引き上げる。

○正規労働者の一時金（年間）について

・各社現行通りとする。

・但し、昨年の年収が 550 万円未満かつ、
年間一時金が 130 万円未満の者については、130 万円を上限に
50,000 円引き上げる。

○日々雇用労働者の日額賃金及び最低賃金について

①日額賃金の総額が 15,000 円未満の社は 15,000 円に到達させる。

②日額賃金の総額が 18,000 円未満の社は 1,000 円引き上げる。

※上記回答は昨年同様の回答でありオーナー会は周知をはかる。

○日々雇用労働者の繁忙手当について

・夏季冬季の手当てについては、各社現行通りとする。

○人員補充について

・オーナー会は、非正規労働者が主流となっている輸送態勢について
異常であるとの認識に立ち、法令遵守の立場から
慢性的人手不足の解消、安定供給態勢の確立にむけ、
協議会と真摯に協議し打開策を講じる。

（一社）西日本建設関連オーナー会会長の菅生行男氏（写真左）と、コメントを述べる顧問の木村貴洋氏（写真右）。

の処遇改善④不当不法な蛮行を許さない労使関係の確立など、４つの課題をテーマとして進めるよう求め、今後締結にむけ発展的に協議を進めることを確認した。また、バラセメント輸送労働者の処遇改善は、バラセメント輸送の秩序確立をはかることをめざした労使懇談会を開催し、バラセメント輸送業者が置かれている現状認識の一致をはかり、今後の労使関係確立にむけてオーナー会の協力を要求。その他の要求事項については、中期的な課題と区分けし、継続協議の中で、急がれる課題に集中して結論を出していくよう要請を行った。

労供連絡協議会

組合員募集!!

組合に加入しよう!!

加入お待ちしております、お気軽に声をかけてください。

業務内容

4t～10 t
コンクリートミキサー車
乗務

労供連絡協議会は、西日本建設関連オーナー会と連携、協力関係にある優良団体です。
コンプライアンスの確立された、安心、安全な職場環境で、あなたの力を発揮しませんか？
ただいま近畿一円の生コン業界の発展を担う人材を広く募集しております。
労供連絡協議会加盟の各団体に是非ご加入下さい。

連絡先 TEL：06-6886-3322

編集後記

「冬は必ず春となる」

４月１日、新元号が「令和」に決定しました。これは万葉集の梅の花の歌 32 首の序文にある文言から引用され、“人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ”という意味が込められています。これまでの元号の典拠が、中国の古典であったのとは違い、万葉集は天皇から名もなき庶民まで幅広い階層の人々の詠んだ歌が収められているという点でも、はじめて民主主義の時代に生まれ育った次期天皇とともに歩んでいく、新しい時代に相応しい元号ではないでしょうか。また梅の花は、長い冬が終わり春を告げる花ですが、戦争の昭和、災害の平成という辛い時代を乗り越え、明るい花開く時代を迎えるとの希望が「令和」には込められているのでしょう。

元号の発表に先立ち、３月 27 日に、一般社団法人 西日本建設関連オーナー会と KURS（コース）の平成最後の春闘が合意に至りました。

平成における今までの春闘は、労使の力と力の対立で、回答を得るということが繰り返されてきました。

しかし、「議論したり反駁（はんばく＝他人の主張や批判に対して論じ返すこと）したりしているうちには、相手に勝つようなこともあるだろう。しかし、それは空しい勝利だ――相手の好意は絶対に勝ち得られないのだから。」（ベンジャミン・フランクリン）とあるように、単に相手を打ち負かすことが業界にとって本当の勝利ではない。我々 KURS（コース）は、昨年の春闘同様、自分たちの主義主張を前面に出すのではなく、双方の信頼関係を構築すべくオーナー会との対話を行ってきました。労使が互いを尊重し合い、恒常的な業界の発展へ向けたパートナーシップを築いていくことが、次の時代を迎える私たちの使命ではないでしょうか。

労使対立の時代から美しく心を寄せ合う労使協調の時代へ――。「冬は必ず春となる」という思いを「令和」に込めて。

2019年４月
ＫＵＲＳ「結」編集委員会

「結」Vol.10 2019 年
2019 年 4 月 10 日
発行・発行所 KURS Kinki Union council of Ready-mixed concrete Staff
〒 532-0011　大阪市淀川区西中島 7-12-9
発行人　岡元 貞道
編集　「結」編集委員会

誌上 Gallery［第４回］

第12回 未来の街を描こう!! 絵画コンクール 受賞作品

テーマ「世界に見せたい未来の街」

審査員特別賞

『みんな楽しくくらせる未来』
笹井 涼太さん（5年生）

『動物とくらす未来の街』
香西 杏奈さん（3年生）

『ワープする光の窓』
森川 瞳さん（6年生）

『温泉に浸かりながら』
井上 茉優さん（3年生）

『でん車の中に町をのせてせかいりょこう』
和田 結花さん（2年生）

『ふしぎな土の世かい』
芳野 優莉さん（2年生）

主催：大阪広域生コンクリート協同組合　産経新聞社
後援：大阪府　大阪府教育委員会　大阪市　大阪市教育委員会

詳しくは
コチラのページを
ご覧ください